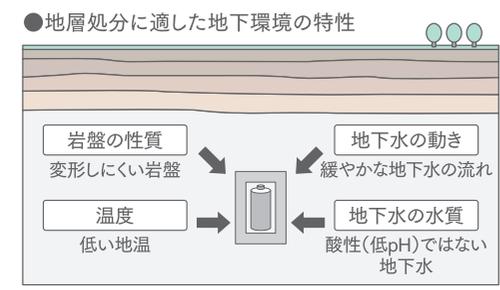
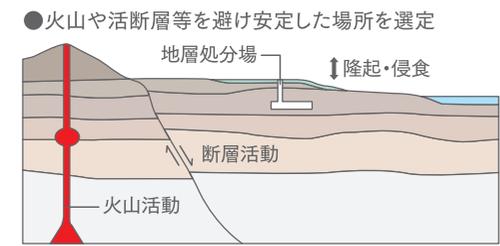




地層処分に適した場所は 日本にあるの？

地層処分 これまでの原子力発電の利用で生まれた「高レベル放射性廃棄物」。各国が自国内で「地層処分」することが、国際的な共通認識です。処分地選定を先送りせず、社会全体で考える必要があります。

「高レベル放射性廃棄物」の「地層処分」に適した地下環境とは
「高レベル放射性廃棄物」の「地層処分」は、火山活動や活断層から十分に離れた場所、地盤が安定している場所など、安全基準を満たした地域でのみ実施が可能です。2017年に国が公表した



科学的特性マップからも、「日本で『地層処分』に適した地下環境が広く存在する」*ことがわかっています。
*総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 地層処分技術WG 中間とりまとめ(2014年5月)より

多くの地域での調査と、地質条件等の比較検討を
現在、処分地選定の最初の調査である文献調査を、北海道寿都町・神恵内村と佐賀県玄海町で実施*しています。「地層処分」に適した場所を選定するために、さらに多くの地域で地質条件等を比較検討したいと考えています。NUMOは専門的な知識と技術をさらに積み重ね、科学的なデータを集めながら慎重に処分地選定に取り組んでまいります。

*調査の進捗や結果については、地域の皆さまへの説明会や公式ウェブサイト随時公開しています。

日本中で考えよう。地層処分のこと。



なぜ「日本中で」
考える必要があるの？

地層処分

これまでの原子力発電の利用で生まれた「高レベル放射性廃棄物」。各国が自国内で「地層処分」することが、国際的な共通認識です。処分地選定を先送りせず、社会全体で考える必要があります。

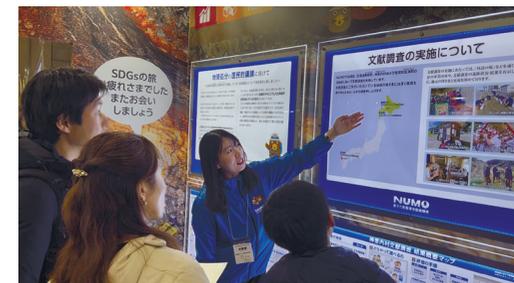
**「高レベル放射性廃棄物」の
より安全な処分のために**

原子力発電所で使用した燃料から生じる「高レベル放射性廃棄物」を、地下300メートルより深い安定した岩盤に安全に埋設する処分方法—これが「地層処分」です。安全を最優先に適地を選定するには、複数の地域で、科学的根拠に基づいた調査が不可欠です。これは一部の地域だけの問題ではなく、国全体で取り組むべき課題です。

**今ある廃棄物の処分について、
将来世代に負担を残さないために**

私たちは日常生活で電気を使用しています。その一部は原子力発電によるもの。日本ではすでに、「高レベル放射性廃棄物」が「ガラス

固化体」に換算して約27,000本分*存在しています。電気を使う私たちにとって、廃棄物の処分「地層処分」は、一緒に考える必要のある大切なテーマです。NUMOは、全国各地で皆さまと対話を重ねながら、様々な声に耳を傾ける活動を続けています。将来世代に負担を残さないために、皆さま一人ひとりのお考えをお聞かせください。



2025年12月10～12日「エコプロ2025」
NUMOの展覧ブースにて、来場された皆さまと対話

※2025年3月末時点

日本中で考えよう。地層処分のこと。

